

一般質問

6月定例会



長島 正一議員

Q 社会教育の推進を

少子高齢化や人口減少に歯止めがかからない。画一的に進められる地方創生に疑問が示される中、有識者は教育行政の重要性を指摘している。将来を託す若者に期待が集まる一方、若者の活動拠点であった、青年団や婦人会活動等が衰退した。若者の社会参加の機会が少なくなり、各分野でリーダー不足が起こったことが、地方衰退の要因の一つとされている。社会教育の在り方を問う。

A 若者の顔が見える町づくりを目指す

教育長 矢飼 斉

若者のリーダー不足がある。「公民館を核に社会教育の推進」を基本方針に掲げ、人材の育成や地域課題解決に取り組む。

また、地域振興に若者・女性の顔が見える町づくりを目指し、交流の促進を支援する。若者・女性で組織する団体への助成金を設ける。

参考／若者人口20代311人・30代380人



学習支援館で勉強中

Q 学校給食への「やる気」と仕組みづくりは

地産地消が推進され、多くの自治体で食育が進み、学校給食へ地元農産物の使用が進んでいるが、本町は著しく低い。今後の取り組みを問う。

A 場長を配置し取組む

教育長 矢飼 斉

地産地消に係わる食育は、地域や食文化を理解する上で、重要な教育と考える。今年度は場長を配置し、地元産受入れ対応や運営体制の整備を図り、生産者や出荷協議会へ協力を働き掛ける。



給食センター

Q 将来に向けての財政運営は

人口減少社会では、人材への投資なくしては、地域経済維持は不可能と提言されている。

また、公共施設維持管理の在り方は、将来を見越し整理計画を町民に示し理解を得ることが大事だ。考えを問う。

A 町民の協力を得進める

町長 山崎 英樹

平成28年度では86人の減少となり、福祉現場では人手不足から受け入れ定員を減らす現実がある。人口減少社会における様々な課題に向け、地域包括ケアなどの仕組みを確立し問題解決に努める。

また、公共施設維持管理は財政運営に及ぼす影響が大きい。施設の集約化、有効活用、廃止譲渡等、町民の協力を得ながら方向付けを行い、健全な財政運営に努めていく。

一般質問

6月定例会



門 眞一郎 議員

Q 飼い猫の不妊手術に助成を

浜田市が、本年度から飼い猫及び野良猫に対する不妊、去勢手術にかかる費用の助成を始めた。目的は野良猫の増加防止や動物愛護の機運醸成だ。

本町は飯南町動物の愛護及び管理に関する条例を制定し、この目的を達成するために必要な施策を講ずるとしている。生命地域を標榜する本町であるから、動物愛護の機運醸成を図り、捨てられたり処分されるペットをなくすことは重要だ。猫の不妊、去勢手術に助成を行うよう提案する。



A 自己責任で行うべき

町長 山崎 英樹

浜田市は、1匹当たり5000円を上限として助成されている。申請状況は5月末現在で42匹。

動物は、飼い主が最後まで責任をもって飼うことが原則で、愛情をもって適切に飼養しなくてはならない。動物愛護の機運醸成は、町民あげて努めなければならないと思う。

Q ケーブルテレビもっと活用を

本町のCATV普及率はほぼ100%であり、平成30年度に全線光ケーブル化する計画だ。これにより情報の通信速度や画像の品位が飛躍的に向上する。

この施設の能力を生かし、さらに手厚い住民サービスに努めなければならない。そのため、町民の皆さんによる検討委員会を設置すべきだ。

雲南市など県内だけでなく、広島県のケーブルテレビと連携し、情報交換してはどうか。平成32年から大学入試制度が変更され、英語の民間資格試験の成績が評価される。CATVを通じて、学習支援館の英語授業を行い、語学力の向上を図ってはどうか。



編集操作中のCATVスタッフ

A 今後の課題だ

町長 山崎 英樹

ケーブルテレビの自主番組放送、いいなん情報箱・雲南情報NOWは4月から雲南市、飯南町で相互に放送されている。

飯南高校情報箱は雲南市で見ることが出来るようになっており、高校への入学生の確保につながるものと期待している。

県外への情報発信はインターネットによる方法しかないが、今後の検討材料としたい。

A 検討すべき内容が多い

教育長 矢飼 斉

ケーブルテレビを活用した家庭学習支援は、双方向通信環境や既存の放送番組との差別化など、検討すべき内容がある。いいなん局・学習支援館と学校も含め協議をしながら検討する。